

# 信州へのオフィス移転

— 貴社の企業カルチャーを表現するオフィスを信州に —



## *Office Concept*

アルプスを望むカラマツ林の中で

“新たな価値”をつくり続ける、信州のオフィス

**Forest**  
CORPORATION



# (株) フォレストコーポレーションのご紹介

- 企業概要 ・ 事業内容 -

## 信州は、住みたい地域No.1 それは街づくりをしてきた私たちの誇りです

### 企業概要

設立： 昭和35年（創業60年）  
 代表者： 小澤 仁  
 社員数： 129名（R2.5月現在）  
 売上： 62億2853万円  
 事業内容

木造注文住宅、RC賃貸及び戸建賃貸住宅の  
 建築販売、不動産事業

本社： 長野県伊那市ますみヶ丘7352-1  
 支店： 長野支店、松本支店、軽井沢支店  
 営業所： 諏訪営業所、上田営業所

私たちの取り組みは、高く評価されています



日本サービス大賞  
NIHON SERVICE AWARD

第一回「日本サービス大賞」  
 地方創生大臣賞受賞



働きがいのある会社 ベストカンパニー  
 2016～2020年 5年連続受賞

優れたデザインは、数々の賞に輝いています



GOOD DESIGN

2019年 毎日が土間バ「古牧の家」  
 2018年 自分の山の木で家づくり  
 2017年 若里の家  
 2016年 工房信州 薪ストックヤード

2015年 信州の家は信州の木で  
 2014年 あなたが選ぶ山の木で家づくり  
 2014年 街まるごとリフレッシュデー  
 2013年 信州を楽しむ住まい 土間サロン

## 木造注文住宅

### 工房信州の家



- 工房信州の家(木造注文住宅) 100棟/年
- 長野県産材住宅 実績No.1 累計 1110棟

※棟数は2020年3月末現在

## 賃貸マンション&戸建て賃貸



Forest Wing Villa  
..... フォレストウィングヴィラ .....



フォレストウィングマンション



- ウィングマンション（RC賃貸）234棟 2661室
- ウィングヴィラ（土間付き戸建賃貸）485戸
- 総戸数 3146室

## オフィス建築／サードオフィス



- 2020年 フォレストコーポレーション新社屋  
33回 日経ニューオフィス賞「推進賞」を受賞

企業カルチャー、企業文化を表現した、皆が集う楽しい  
 オフィスをご提案いたします





アルプスの山並みのように連なる下屋と深い軒の美しい外観デザイン



# Seamless

隔たりのない開放的なオフィス空間



家のような居心地のよさがありつつ感性を刺激し知的生産を促す場



# Party Kitchen

体験共有の場／カフェ・キッチン



# Doma Salon

土間サロンが「場」となり、INNOVATIONを生み出す



# 企業カルチャーを体現する オフィスを信州に

—信州へのオフィス移転—

## 今、信州・長野県が注目されています

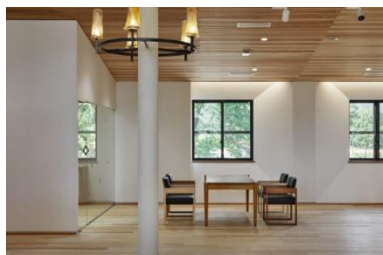
コロナをきっかけに、都市部にあるオフィスを縮小し一部を移転したいという話が出てきています。中でも信州・長野県は、都市部（首都圏、中京圏）から近いことや、首都圏と中京圏の中間地点に位置すること、そして災害が比較的少なく、BCPの拠点としても利用できるなどの理由から、オフィスを長野県に移転したいという企業が増えています。



当社は、長野県全域で「工房信州の家」（木造注文住宅）を累計1,100棟、「フォレストウィングマンション」（鉄筋コンクリート造賃貸マンション）を累計3,200室ご提供させて頂き、創業60年を迎える建設会社です。昨年には新しいカタチの2つのオフィスを自社で建設しました。

1つは、長野県伊那市にある新本社オフィスで、もう1つは長野県軽井沢町にある「サードオフィス」です。これらのオフィス建設を通して、オフィスは「自社の企業カルチャーを体現する場」であり、「チームの共創による新たな価値創造の場」であることを痛感しました。この経験・ノウハウを生かし、長野県内にオフィスを移転したいという企業様のご要望に全力でお応えしたいと思っています。

## 新本社オフィス（長野県伊那市）



## サードオフィス（長野県軽井沢町）



# 地方における 新たなオフィスの在り方

— 信州へのオフィス移転 —

## 2020年、日経ニューオフィス推進賞を受賞しました

当社の主力事業「工房信州の家」では、長野県産材を85%以上使い、輸入材を一切使わず、内壁は珪藻土仕上げと信州らしい住宅を提供しています。新本社はこの「工房信州の家」のようなオフィスにしたいと計画しました。

玄関の先には畳敷きのカフェが広がり、下足を脱いで社内に入ります。中には多くの「工房信州の家」で採用されている「土間サロン」が3つあります。

「土間サロン」とは、外でも内でもないあいまいな空間で、人々が自然に集う場となります。新本社では3つの趣の異なる「土間サロン」を社員同士、社員と顧客、社員と外部パートナーのさらなる交流を図るために設けています。



顧客用土間サロン



社員用土間サロン



パートナー用土間サロン



## 第33回 日経ニューオフィス賞



この新本社は、2020年、「第33回日経ニューオフィス賞」において、「日経ニューオフィス推進賞」を受賞しました。

日経ニューオフィス賞は、日本経済新聞社と一般社団法人ニューオフィス推進協会（NOPA）が主催し、1988年より「ニューオフィス」づくりの普及・促進を図ることを目的とし、創意と工夫をこらしたオフィスを表彰しています。

2020年は応募総数125件の中から、当社の新本社を含む16社が「日経ニューオフィス推進賞」として選出されました。

この日経ニューオフィス賞の応募書類とりまとめや、この賞の現地審査でのプレゼン及び審査員の皆様からの質疑応答を通して、近年のオフィスは、企業の姿勢や顧客に対するアピールポイントをオフィス全体として発信するものになってきていることを知りました。

企業カルチャー・企業文化をオフィスそのもので表現し、そのオフィスに集う人達によってさらに企業カルチャーが醸成されていく。そのような環境下で新たなイノベーションが創出され、企業がさらに成長していく。当社の新本社もそのような意図で建設しました。

# チームの共創により 新たな価値創造を

— 信州へのオフィス移転 —

## 人材不足・事業停滞・組織力低下 すべてを解決する信州のオフィス移転

軽井沢に建設した「サードオフィス」は、在宅勤務が増えている昨今の働き方の中で、都市部にある本社とは別に、リアルで会い、チームで集い、新たな価値を生み出す場—イノベーションの戦略基地—となる「企業の第三のオフィス」として計画しました。リモートが重視される時代だからこそ、人が集まり刺激し合ったり、直接会いコラボすることで、世の中のどこにもなかった答えを導き出し、イノベーションを創造する場が必要となっています。

都心部のオフィスは、最新の情報を集め、集中して緻密に企画書をまとめ成果を出す空間であり、信州のオフィスはワイガヤでより多くのアイデアを出し、知の交流とインスピレーションの湧出が促進され、創造力が最大限に発揮される空間です。

双方の利点を生かし、“行き来”することで企業のさらなる成長へとつなげる価値創造の場「サードオフィス」を信州につくらせていただきたいと思います。



自社の2つのオフィス建設を通じて、これから信州にオフィス移転をお考えの企業の皆さまにぜひともご提案したいことがございます。それは、せっかく都市部から離れた信州にオフィス移転をされるのであれば、駅前のテナントビルに入居されるのではなく、信州らしく、森の中で、アルプスの山々の眺望が臨めるような場所にオフィスを設けることです。

- ◇皆がリラックスした中でミーティングができ、闊達な意見、自由な発想も生まれる。
- ◇時には地元のワインやお酒を片手に信州の新鮮な野菜や食材でバーベキューパーティをする。
- ◇外の雪景色を眺めながら薪ストーブの炎に癒され、土間バーで夜まで語らう。

企業カルチャー、企業文化を体現し、チームの共創により新たな価値創造となるオフィスを非日常の信州につくりませんか？ 私達が全力でお応えさせていただきます。



# 社員が転居を強いられない オフィス移転を

—信州へのオフィス移転—

## 社員が転居を強いられないオフィス移転を

地方へのオフィス移転が複数の大企業でも行われると発表がありました。信州へのオフィス移転を推進したい当社としては、「地方への」を「信州への」としていきたいところです。

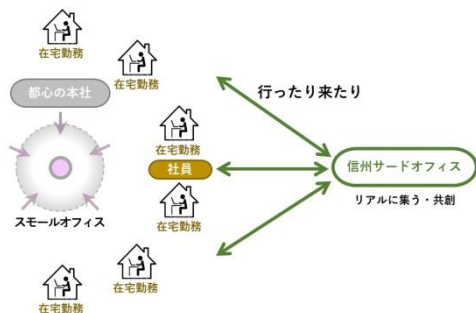
信州・長野県は、都市部（首都圏、中京圏）から近い（東京⇄軽井沢 北陸新幹線最短 64分）ことや、首都圏と中京圏の中間地点に位置すること、そして災害が比較的少なく、BCPの拠点としても利用できるなどの理由から、ぜひ多くの企業のオフィス移転を信州にと考えています。

その際一番考えなくてはいけないことは、オフィス移転に伴う社員の皆様の転居はどうするか？ということなのです。オフィスを地方に移転すると同時に、社員の皆様の住まいも同様に転居するののかという、重い課題が持ち上がってきます。

- オフィスを移転するのはいいが、社員はついてきてくれるのか？
- 社員に転居を強いることができるのか？
- 転居により社員の家族の人生設計が狂ってしまわないか？
- 社員及び家族の多様な生き方を否定することにならないか？

オフィスを移転し、さらに社員の皆様までも一緒に転居するというのは、社員の皆様及びそのご家族の皆様の生き方を大きく変えることになるでしょう。加えて、社員の皆様にそれを強いていくことは、昨今提唱される働き方に逆行することになりかねません。

## 信州サードオフィス という選択



サードオフィスは社員の皆様の転居を必須としません。社員の皆様は在宅で勤務して、チームで集い、リアルで会って、「新たな戦略をつくる」、「新たな発想を得る」ような時だけサードオフィスに「出勤」します。前出のように都心から近いため、「通勤」で働くことが可能となるのです。

社員の皆様は、現在の居住地とサードオフィスを「行き来してイキイキ」週(月)に何回か、都心と非日常の信州を行き来して、皆と集い、新たなイノベーションにワクワクしながら「イキイキ」していきます。



リアルで会う



チームで集う



新たな発想と戦略

コロナによって個で働く在宅ワークが当たり前になったからこそ、非日常の「サードオフィス」が、皆が集って新たな戦略をつくり、新たなイノベーションを得るのに最適な場となります。そして「サードオフィス」は、リモート時代のオフィスの在り方、社員が転居を強いられないオフィス移転の在り方、働き方改革の中でのオフィス移転の在り方、社員の多様な生き方を尊重するオフィス移転の在り方を提案します。

さらに、信州にオフィスを移転された後は、社員の皆様が少しずつ信州に馴染み、信州を好きになって、ご本人の希望で転居される方が増え、信州・長野県の人口増加、活性化につながっていけば素晴らしいことだと考えています。

当社は信州へのオフィス移転、そして社員の皆様の移住を全力でサポートして参ります。